

どえりゃあ～ことをやってくれました！

そうです・・・皆さんもご承知のとおり、本校野球部が秋の全道大会で見事優勝してくれました。

私は、修学旅行も控えていて忙しく、なかなかいつものように応援に行けませんでした。決勝戦には何とか間に合って、恒例の檄文を読み上げることもできました。

だけど、もしここで負けたら、準決勝まで順調に勝ち進んできたのに、校長が来たから負けたと言われるのではないかと、内心ハラハラしていました。

試合も前半はリードを許す息苦しい展開で、やっぱり来なければ・・・との気持ちもよぎりましたが、相手のピッチャーも立ち直りの兆しが見られなかったことから、いつかどこかで必ず捉えてくれるだろうと思っておりました。

そうしたら5回の表に大量6点を入れて逆転に成功！

その裏にツーランホームランを打たれ、1点差に詰め寄られはしたものの、その後はリリーフの坂本武紗土君が良く投げて、無得点に抑えてくれました。

8回にも追加点を取り、最終的には12-8で見事に打撃戦を制しました。

これまで秋の全道大会は、ずっと北海道地区の高校が優勝してきており、北北海道地区からは平成24年度以来、もちろん十勝地区からは初の快挙です。

11月15日から開幕する第50回明治神宮野球大会では、主将の業天汰成君が選手宣誓を引き当て、気合い十分で試合に臨んでくれるものと期待しております。

そして、来春の選抜大会への切符をつかみ取るまで、気を緩めることなく研鑽に努めて欲しいと願っております。

そんなこともあって、今回の校長通信2019冬号は、2011年夏の甲子園で優勝した日大三高小倉監督のお話を載せます。

白樺学園高校応援歌の歌詞に出てくる“心を一つに”“Team Shirakaba”に通ずるものがありますね。

ちなみにこの大会は、本校が2回目の甲子園出場を果たした大会でもあります。

『努力（練習）は、ウソをつかない』

日大三校野球部監督 小倉全由（2011年当時）

朝5時半から、夜遅くまでの練習をしたから全国制覇できたのです。

どこの高校も、もちろん血の出るような練習をしたと思います。

その量と質には、大きな違いがあるような気がします。

スポーツでも、仕事でも、時間をかけるだけが、勝負を決するわけではありません。

合理的で、科学的に計算された練習が望まれます。

さらに大事なことがあります。メンタル面です。

まず、「甲子園で優勝できる」と全員が思い込むことです。

オリンピック選手が言う「金メダルを取り、表彰台に上がる自分の姿をイメージ（トレーニング）する。」と同じです。

その優勝に向かい、皆が一つの心になった時に大きな力が出ます。

自分一人ぐらい手を抜いてもいい等と思ったときは必ずダメです。

勝利の女神は、強い団結力を有し、努力しているチームになびきます。

そうでないと浮かばれないです。

それと努力でも練習でも、すぐに効果が出ない場合も多々あります。

長い期間かかって実るときもあります。

ですから、すぐに諦めないことが肝心です。

事を成すには、「継続は力なり」です。

インフルエンザが流行の兆しを見せております。呉々もご自愛を・・・